放牧を止めてからは樹林が回復し、今では美しいイヌシデの林となっている。イヌシデのほかにミズナラ、クリ、ヤマモミジ、ウリハダカエデなども多い。ウリハダカエデは、緑色の樹皮に黒の縦縞が入るのでその名がある。林床にはヤマツツジが団塊状の茂みをつくり、その下にクマイザサが密生している。

このイヌシデ林の中をゆっくりと下りて行くと、やがて開けた所に出る。天王平と呼ばれる古い馬立場の跡で、オニシバの草地となっている。振り返ると日山の山頂の赤い社を望むことができる。このシバ原にも、さまざまの秋草が咲く、オミナエシ、ヤマハハコ、ウメバチソウ、サワヒヨドリ、ネジバナ、アキノキリンソウ、ヤマハギなど、その種類は多い。

〔オミナエシ〕秋の七草の一つである

尾根筋の路は再びイヌシデの林に入る。途中、左手の斜面を移へ降りる路が分かれる。しばらく行くと土塁が現れ、林が切れて視界が開ける。この土塁の先は斜面となっており、田沢口で見上げた茂原川口牧野組合の牧草地になっている。かつてはここが萱場と呼ばれる採草地になっていて、冬季の飼料である干し草用の野草を繁殖させていた。そのため、放牧馬が入り込まないように採草地の周辺を土塁で囲んだのである。今は、ケンタッキーフェスキューやイタリアンライグラスなどの牧草が栽培され、牛が放牧されている。土塁は、その牛が外へ逃げ出さないように、かつて馬を入り込ませないのとは逆の機能を果している。

この土塁に沿って、路は最後の尾根の下りとなる。行きついた鞍部から西へ車道が通じている。この路をたどると茂原に出る。バスに乗るためには、さらにこの先の百目木まで